

目

NO. 1	金石文(宮沢俊雅)
NO. 2	古事記(石塚晴通)
NO. 3	日本書紀(石塚晴通)
NO. 4	祝詞(西宮一民)
NO. 5	宣命(西宮一民)
NO. 6	万葉集(一)(木下正俊)
NO. 7	万葉集(二)(木下正俊)
NO. 8	仏足石歌(橋本四郎)
NO. 9	正倉院仮名文書(橋本四郎)
NO. 10	新詠華嚴經音義私記(白藤禮幸)
NO. 11	日本靈異記(小泉道)
NO. 12	古点本 I (中田祝夫)
NO. 13	東大寺飄讀文稿(中田祝夫)
NO. 14	在唐記(馬淵和夫)
NO. 15	有年申文(中田祝夫)
NO. 16	新撰字鏡(木下正俊)
NO. 17	古今和歌集(築島裕)
NO. 18	倭名類聚抄(宮沢俊雅)
NO. 19	伊勢物語(松尾聰)
NO. 20	土左日記(安田尚道)
NO. 21	将門記(松城俊太郎)
NO. 22	あめつち・たぬに・いろは(小松英雄)
NO. 23	三宝絵詞(春日和男)
NO. 24	枕草子(松尾聰)
NO. 25	源氏物語(松尾聰)
NO. 26	御堂閨白記(峯岸明)
NO. 27	音図(馬淵和夫)
NO. 28	草仮名消息(中田祝夫)
NO. 29	更級日記(追野虔徳)
NO. 30	大鏡(渡辺実)
NO. 31	今昔物語集(馬淵和夫)
NO. 32	法華百座聞書抄(春日和男)
NO. 33	古点本 II (一)(小林芳規)
NO. 34	古点本 II (二)(小林芳規)
NO. 35	類聚名義抄(小松英雄)
NO. 36	法華經音義(林史典)
NO. 37	極樂願往生歌(中田祝夫)
NO. 38	梁塵秘抄(小林芳規)
NO. 39	色葉字類抄(峯岸明)
NO. 40	高山寺本古往来(小林芳規)
NO. 41	方丈記(青木侖子)
NO. 42	古本説話集・宇治拾遺物語(山内洋一郎)
NO. 43	四座講式(金田一春彦)
NO. 44	下官集(大野晋)
NO. 45	万葉集註釈・釈日本紀(築島裕)
NO. 46	親鸞聖人遺文(小林芳規)
NO. 47	日蓮聖人遺文(小林芳規)
NO. 48	平家物語(松城俊太郎)
NO. 49	徒然草(桑原博史)
NO. 50	世阿弥自筆本謡曲(奥村三雄)

次

NO. 51	下学集(林義雄)
NO. 52	庭訓往来(北恭昭)
NO. 53	史記抄(柳田征司)
NO. 54	文明本節用集(湯沢質幸)
NO. 55	手ノ葉大概抄・姉小路式(稻来司)
NO. 56	温故知新書(根上剛士)
NO. 57	四河入海・玉塵抄(出雲朝子)
NO. 58	東国抄物(外山映次)
NO. 59	古本節用集(根上剛士)
NO. 60	狂言(北原保雄)
NO. 61	平曲(奥村三雄)
NO. 62	吉利支丹本(安田章)
NO. 63	吉利支丹語学書(森田武)
NO. 64	三河物語(林史典)
NO. 65	醒睡笑・きのふはけふの物語(北原保雄)
NO. 66	かたこと(宇野義方)
NO. 67	捷解新語(安田章)
NO. 68	補忘記(金田一春彦)
NO. 69	浮世草子(坂梨隆三)
NO. 70	蜩縮京鼓集(亀井孝)
NO. 71	浄瑠璃(坂梨隆三)
NO. 72	音曲玉淵集(馬淵和夫)
NO. 73	和字正濫抄・和字大観抄(馬淵和夫)
NO. 74	俳諧・俳文(鈴木一彦)
NO. 75	物類称呼(徳川宗賢)
NO. 76	洒落本・滑稽本(小島俊夫)
NO. 77	読本(松村明)
NO. 78	人情本(小島俊夫)
NO. 79	和英語林集成(松村明)
NO. 80	五箇条の御誓文(飛田良文)
NO. 81	安愚楽鍋(古田東朔)
NO. 82	学問のすゝめ(飛田良文)
NO. 83	明治の新聞(飛田良文)
NO. 84	小学読本(飛田良文)
NO. 85	怪談牡丹燈籠(飛田良文)
NO. 86	言文一致(古田東朔)
NO. 87	明治の文語文(古田東朔)
NO. 88	明治の讀訳文(古田東朔)
NO. 89	明治の論文(古田東朔)
NO. 90	大正期の散文(田所周)
NO. 91	近代詩(田所周)
NO. 92	現代の話しことば(大石初太郎)

[別 冊]

序	2
上代語概説(橋本四郎)	3
中古語概説(大野 晋)	4
中世語概説(小林芳規)	6
近世語概説(松村 明)	8
近代語概説(古田東朔)	10

中卷本在以下小田大宮以下下卷并錄三卷謹以殿上臣等
 信誠惟誠懇領首如銅五年己月廿日自立止動皇事奉朝
 臣安高信天地初發之時於高天原成神若天之御中主神
 下建此高御座巢日神以神產巢日神此三柱神者並獨
 神成聖而隱身也天國椎如浮輪而久羅下那例多花用樂流
 名時流字上如奉牙固前騰之物不成神為宮序志所斷
 惟以名連神以音次天之常三神則常三神此三柱神亦並獨
 神成聖而隱身也

上件五柱神者別天神

淡成神為國之常立神亦如上以靈臺上野神此三柱神亦獨神成
 聖而隱身也淡成神在宇比地迹上神以味頂比智迹神此亦
 角村神以味枝神三柱以意高斗能地神以味斗乃神此
 品以控母地流神以味阿夜新志古法神此神者以伴那神次
 味伴那卷神此神者亦上件自國之常三神伴那卷神
 以前并稱神世七代上柱神者三柱以殿上
 耶那命伴耶那命二柱神此理國成皇皇既用樂流而

古事記卷初 序

臣安高信言夫混元既凝氣未致要為要為誰置於然
 軋坤初分天地神作造化之首隱陽新開二靈為君平品之祖
 可以出入幽顯日月軌於洗日浮沉海水神祇里於滌身致矣
 崇奉冥日本教所識孕立產鳥之時九始綿邈賴先聖
 而奉生神三人之世是初懸鏡吐珠而百王相續聖劍切地
 以分神蕃息與談女河而平天下論小漢而清國土皇以蕃
 仁波命初降于萬千嶺神伴天皇經歷于秋津鴻化熊出